

# vRealize Operations Manager OPS-CLI のヘルプ

2018 年 7 月 19 日

vRealize Operations Manager 6.7

最新の技術ドキュメントは、VMware の Web サイト (<https://docs.vmware.com/jp/>)

**VMware, Inc.**  
3401 Hillview Ave.  
Palo Alto, CA 94304  
[www.vmware.com](http://www.vmware.com)

**ヴィエムウェア株式会社**  
105-0013 東京都港区浜松町 1-30-5  
浜松町スクエア 13F  
[www.vmware.com/jp](http://www.vmware.com/jp)

Copyright © 2020 VMware, Inc. All rights reserved. [著作権および商標情報。](#)

# 目次

<b>1</b>	<b>OPS-CLI コマンドライン ツール</b>	<b>4</b>
	dashboard コマンドの動作	5
	template コマンドの動作	6
	supermetric コマンドの動作	6
	attribute コマンドの動作	7
	reskind コマンドのオブジェクト タイプに関する動作	7
	report コマンドの動作	8
	view コマンドの動作	8
	file コマンドの動作	8

# OPS-CLI コマンドライン ツール

# 1

OPS-CLI ツールは、vRealize Operations Manager データベースの操作に使用できる Java アプリケーションです。VCOPS-CLI ツールと DBCLI ツールに置き換わるものです。

tools ディレクトリまたは `<VCOPS_BASE>/tools/opsccli/` に実行ファイルがあります。

オペレーティング システム	ファイル名
Linux	ops-cli.sh
Python	ops-cli.py

どの OPS-CLI コマンドでも、`-h` パラメータを指定するとローカライズされた対話式ヘルプが表示されます。

`control` コマンドを `post_install.sh` スクリプトに追加すると、アダプタのインストールまたはアップグレード後に再記述プロセスがトリガされます。

```
control -h | redescrbe --force
```

## 関連するコマンドライン ドキュメント

OPS CLI 以外にも、VMware PowerCLI が、管理タスクへのコマンドライン アクセス用または実行可能スクリプトの作成用の使いやすい Windows PowerShell インターフェイスを提供します。すべての VMware PowerCLI バージョンのドキュメントは、[VMware PowerCLI](#) から入手できます。

## サポートされる操作

OPS-CLI ツールでは、次のデータベース操作がサポートされています。

この章には、次のトピックが含まれています。

- [dashboard コマンドの動作](#)
- [template コマンドの動作](#)
- [supermetric コマンドの動作](#)
- [attribute コマンドの動作](#)
- [reskind コマンドのオブジェクト タイプに関する動作](#)

- [report コマンドの動作](#)
- [view コマンドの動作](#)
- [file コマンドの動作](#)

## dashboard コマンドの動作

dashboard コマンドは、ダッシュボードのデフォルト サマリのインポート、エクスポート、共有、共有解除、削除、順位設定、表示、非表示、設定に使用します。

dashboard コマンドの構文は次のとおりです。

```
dashboard -h | import|defsummary|export|share|unshare|delete|reorder|show|hide [parameters]
```

表 1-1. dashboard コマンドのオプション

コマンド名	説明	構文
dashboard import	ファイルからダッシュボードをインポートし、所有権をユーザーアカウントに割り当てます。	<pre>dashboard import -h   user-name all group:group_name input- file [--force]                         [--share all group-name[{,group- name}]] [--retry maxRetryMinutes]                         [--set rank] [--default] [--create]</pre>
dashboard export	既存のダッシュボードをファイルにエクスポートします。	<pre>dashboard export -h   user-name dashboard-name [output-dir]</pre>
dashboard defsummary	ファイルからダッシュボードをインポートし、所有権をユーザーアカウントに割り当てます。	<pre>dashboard defsummary -h   input-file default                         --adapterKind adapterKind -- resourceKind resourceKind</pre>
dashboard share	既存のダッシュボードを 1 つ以上のユーザー グループで共有します。	<pre>dashboard share -h   user-name dashboard-name all group- name[{,group-name}]</pre>
dashboard unshare	指定したグループとのダッシュボードの共有を停止します。	<pre>dashboard unshare -h   user-name dashboard-name all group- name[{,group-name}]</pre>
dashboard delete	ダッシュボードを永久に削除します。	<pre>dashboard delete -h   user-name all group:group_name dashboard-name</pre>
dashboard reorder	ダッシュボードの順位を設定します。デフォルトに設定するオプションがあります。	<pre>dashboard reorder -h   user-name all group:group_name dashboard-name                         [--set rank] [--default]</pre>
dashboard show	ダッシュボードを表示します。	<pre>dashboard show -h   user-name all group:group_name {,dashbaordname} all</pre>
dashboard hide	ダッシュボードを非表示にします。	<pre>dashboard hide -h   user-name all group:group_name {,dashboardname} all</pre>

## template コマンドの動作

template コマンドは、テンプレートのインポート、エクスポート、共有、共有解除、削除、順位設定に使用します。

template コマンドの構文は次のとおりです。

```
template -h | import|export|share|unshare|delete|reorder [parameters]
```

表 1-2. template コマンドの動作

コマンド名	説明	構文
template import	ファイルからテンプレートをインポートします。	template import -h   input-file [--force] [--share all group-name[,{group-name}]] [--retry maxRetryMinutes] [--set rank] [--create]
template export	既存のテンプレートをテンプレートファイルにエクスポートします。	template export -h   template-name [output-dir]
template share	既存のテンプレートを1つ以上のユーザー グループで共有します。	template share -h   template-name all group-name[,{group-name}]
template unshare	指定したグループとのテンプレートの共有を停止します。	template unshare -h   template-name all group-name[,{group-name}]
template delete	テンプレートを永久に削除します。	template delete -h   template-name
template reorder	テンプレートの順位を設定します。 順位は、作成されたテンプレートの順序を共有テンプレートに基づいて制御します。	template reorder -h   template-name [--set rank]

## supermetric コマンドの動作

supermetric コマンドは、スーパー メトリックのインポート、エクスポート、構成、削除に使用します。

supermetric コマンドの構文は次のとおりです。

```
supermetric -h | import|export|configure|delete [parameters]
```

表 1-3. supermetric コマンドの動作

コマンド名	説明	構文
supermetric import	ファイルからスーパー メトリックをインポートし、特定のユーザー アカウントに所有権を割り当てます。	<pre>supermetric import -h   input-file                         [--force] [--policies all policy-                         name[,{,policy-name}]]                         [--check (true false)] [--retry                         maxRetryMinutes] [--create]</pre>
supermetric export	既存のスーパー メトリックをテンプレート ファイルにエクスポートします。	<pre>supermetric export -h   supermetric-name [output-dir]</pre>
supermetric configures	1 つ以上のスーパー メトリック パッケージ内のスーパー メトリックのプロパティを構成します。	<pre>supermetric configure -h   supermetric-name                         --policies all policy-                         name[,{,policy-name}]]                         --check (true false) --ht (true                          false) --htcriticality level-name                         --dtabove (true false) --dtbelow                         (true false)                         --thresholds threshold-                         def[,{,threshold-def}]</pre>
supermetric delete	スーパー メトリックを完全に削除します。	<pre>supermetric delete -h   supermetric-name</pre>

## attribute コマンドの動作

attribute コマンドは、1 つ以上のパッケージに含まれる特定のメトリックのプロパティを構成するために使用します。このメトリックがオブジェクト属性です。

attribute コマンドの構文は次のとおりです。

```
attribute configure -h | adapterkind-key:resourcekind-key attribute-key
                        --packages all|package-name[,{,package-name}] --check (true|false)
                        --ht (true|false) --htcriticality level-name
                        --dtabove (true|false) --dtbelow (true|false)
                        --thresholds threshold-def[,{,threshold-def}]
```

## reskind コマンドのオブジェクト タイプに関する動作

reskind コマンドは、オブジェクト タイプのデフォルト設定を ResourceKind モデル要素によって定義されているとおりに構成するのに使用します。このコマンドでは、デフォルトの属性またはスーパーメトリック パッケージの設定、動的しきい値の有効化または無効化、早期警告スマート アラートの有効化または無効化ができます。

reskind コマンドの構文は次のとおりです。

```
reskind configure -h | adapterkind-key:resourcekind-key
                        --package package-name --smpackage smpackagename
                        --dt (true|false) --smartalert (true|false)
```

## report コマンドの動作

report コマンドは、レポートのインポート、エクスポート、構成、削除に使用します。

report コマンドの構文は次のとおりです。

```
report -h | import|export|delete [parameters]
```

表 1-4. report コマンドのオプション

コマンド名	説明	構文
report import	ファイルからレポート定義をインポートします。	report import -h   input-file [--force]
report export	1 つ以上のレポート定義をファイルにエクスポートします。	report export -h   all report-name[{{,report-name}}] [output-dir]
report delete	1 つ以上のレポート定義を永久に削除します。	report delete -h   all report-name[{{,report-name}}]

## view コマンドの動作

view コマンドは、ビュー定義のインポート、エクスポート、削除に使用します。

view コマンドの構文は次のとおりです。

```
view -h | import|export|delete [parameters]
```

表 1-5. view コマンドの動作

コマンド名	説明	構文
view import	ファイルからビュー定義をインポートします。	view import -h   input-file [--force]
view export	1 つ以上のビュー定義をファイルにエクスポートします。	view export -h   all view-name[{{,view-name}}] [output-dir]
view delete	1 つ以上のビュー定義を永久に削除します。	view delete -h   all view-name[{{,view-name}}]

## file コマンドの動作

file コマンドは、データベース ファイルのインポート、エクスポート、リスト、削除に使用します。このコマンドは、メトリック、テキスト ウィジェット、トポロジ ウィジェット ファイルを扱います。

file コマンドの構文は次のとおりです。

```
file -h | import|export|delete|list [parameters]
```

表 1-6. file コマンドの動作

コマンド名	説明	構文
file import	ファイルからメトリックまたはウィジェットをインポートします。	<pre>file import -h   reskndmetric textwidget  topowidget             input-file [--title title] [--force]</pre>
file export	1 つ以上のメトリックまたはテキスト ウィジェットをエクスポートするか、トポロジ ウィジェットをファイルにエクスポートします。	<pre>file export -h   reskndmetric textwidget  topowidget             all title[{,title}] [output-dir]</pre>
file delete	メトリックまたはウィジェットを永久に削除します。	<pre>file delete -h   reskndmetric textwidget  topowidget             all title[{,title}]</pre>
file list	すべてのメトリックまたはウィジェット ファイルをリストします。	<pre>file list -h   reskndmetric textwidget  topowidget</pre>